

子どもとはじめる

英語発音と

English pronunciation and phonics

フォニックス

山見由紀子 赤塚麻里 久保田一充 著



南雲堂



音声ファイル
無料 DL
のご案内

このテキストの CD 音声を無料で視聴（ストリーミング）・ダウンロード
できます。また、発音方法がわかる動画も視聴できますので、あわせて
ご活用ください。

以下のサイトにアクセスしてテキスト番号で検索してください。

<https://nanun-do.com> テキスト番号 [**087345**]

※ 無線 LAN（WiFi）に接続してのご利用を推奨いたします。

※ 音声ダウンロードは Zip ファイルでの提供になります。
お使いの機器によっては別途ソフトウェア（アプリケーション）
の導入が必要となります。

※『子どもとはじめる英語発音とフォニックス』音声ダウンロードページ
は以下の QR コードからでもご利用になれます。



1. 英語は聞いているだけで発音できるようになるのでしょうか

日本人が英語を聞くときは、日本語というフィルターを通して、英語の音が耳に届いています。つまり、日本語にない英語の音を聞いたときには、その音を日本語にある音に置き換えて聞いているのです。例えば、日本人が日本語にない英語のLとRの音を聞いたときは、日本語のラ行の音に置き換えて聞いているといえます。

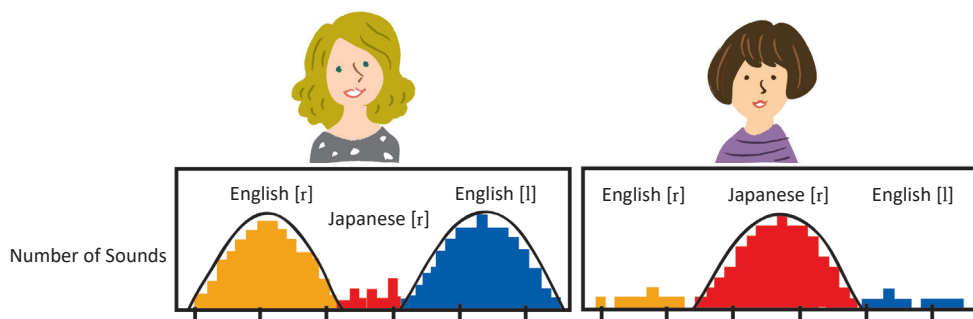
母親が子どもに話しかける言葉の中に、英語ではLとRの音、日本語ではラ行の音が多く入っています。英語のLとRの音と日本語のラ行の音は全く違う音であることがわかっています。母親の言葉を子どもは聞き取ろうとして、英語圏の児童は英語のLとRの音をどんどん聞き取り、日本の児童は日本語のラ行をどんどん聞き取ります。

日本人が日本語を理解できるようになるために、日本語の音の理解の準備に入ることは重要なことですが、その結果、日本の乳児は生後8～10ヶ月で英語のLとRの音が聞き取れなくなっていくます。

日本人が、日本語という音を通して英語を聞いているとすれば、日本語にない音は、発音の仕方をきちんと学ぶことでしか明確に発音できるようにはなりません。したがって、英語の発音の仕方を学ぶことは非常に重要です。また、英語の発音をするときに重要なことは、口を大きく開けてはっきりと発音するということです。日本語を発音するときには、口をあまりあけずに、声も小さくなりがちで、日本語を発音するように英語を発音すると、英語の音にはなりません。口を大きく開けてはっきりと英語の発音練習をしましょう。

図1

英語を話す母親と日本語を話す母親が子どもに話しかける言葉に含まれる音は、こんなに違います。



Patricia Kuhl, Ted com. (2011)

2. 英語のつづりは難しい

世界には 3,000 ~ 8,000 語の言語があるといわれています。その中で英語は最もつづりが不規則な言語の 1 つといえます。ヨーロッパ言語の中には 1 年以下で読み書きが習得できる言語もありますが、英語は、英語圏の児童でも読み書きができるようになるまでに 3 年かかるといわれています。例えばフィンランド語は、音と文字が 1 対 1 対応で規則的であるため、数ヶ月で読み書きができるようになります。一方、英語の音と文字は 1 対 1 対応ではなく、同じ文字や同じつづりが違う音になったり、単語の中に発音しない文字があつたりと非常に不規則です。

英語の「文字」には、さまざまな別の言語を取り込んできた歴史があります。元々、別の言語のつづりをそのまま英語に取り入れているので、英語の文字と発音が一致しないことも多いのです。例えば、ギリシャ語由来の単語 psychology (心理学) にはギリシャ語で語頭にあつた文字がそのまま英語に入ってきたので発音しない p が存在し、フランス語由来の単語には、語頭の h を発音しない honest, hour などがあります。英語は多くの言語のハイブリッド (合成物) と言われ、非常に多文化的で柔軟性がある言語です。

このように、英語の「文字」は非常に不規則なので、英語圏の児童も読み書きには大変苦労します。英語圏の文字を読めない児童の割合は、他の国よりも高いと報告されています。そこで、英語圏の児童が読み書きをできるようになるために考えて作り出されたのが、フォニックスという学習方法です。フォニックスとは、英語圏の児童が、すでに知っている英語の「音」とそれを表す「文字」の関係を学習することによって、自分で読んだり書いたりできるようになるために考えられた学習法です。英語圏の児童は、フォニックスを学習することで、自分で読み書きする力をつけていきます。外国語として英語を学習する日本人にとっても、英語を読み書きできるようになる 1 つの方法として、効果的だといえるでしょう。今まで「音」と「文字」がかけ離れ、英語のスペルはどうも苦手という人にとっても、音と文字の関係が少し魅力的に見えてくるかもしれません。

3. フォニックス学習はどうやるのでしょうか

すでに述べたように、フォニックスとは英語の「音」とそれに対応する「文字」の関係を学ぶ学習法のことです。英語のアルファベットには、それぞれ別の「名前」と「音」があります。英語のアルファベットの「名前」は a, b, c, d をエイ、ビー、シー、ディーとよぶ方法のことで、アルファベットの「音」とは、a, b, c, d をア、ブツ、クツ、ドゥとよぶ音のことです。フォニックスとは、アルファベットの「音」にはどのような「文字」が対応しているのかという規則を学ぶことです。例えば pet を「ピー、イー、ティー」と読むのがアルファベットの「名前」で、pet を「ブツ、エツ、トゥ」

と読むのがアルファベットの「音」です（便宜上ここではカタカナで説明します）。

(例)	p	e	t	
	ピー、	イー、	ティー	（アルファベットの名前）
	プツ、	エツ、	トゥ	（アルファベットの音）

アルファベットの音を組み合わせると pet の発音になります。アルファベットにはそれぞれ音があり、音と文字の規則がわかると、英単語を聞いたときにその音を表す文字を書き、英単語を初めて見たときに自分で読めるようになります。

この本では、英語の「音」に焦点をあて、音と文字の関係を学び、その英語の音をどのように発音するのかを学びます。特に日本人にとって「発音が難しい英語の音」や「間違いやすい英語の音」について、日本語と英語の音はどこがどう違うのかを取り上げます。フォニックス学習で「音」と「文字」の関係を学ぶと同時に、英語の音をどのように発音するかを学ぶことによって、正確に英語の発音ができるようになるという良さがあります。日本語と英語の音の違い、英語の発音の仕方を学び、自信を持って英語を発音していきましょう。

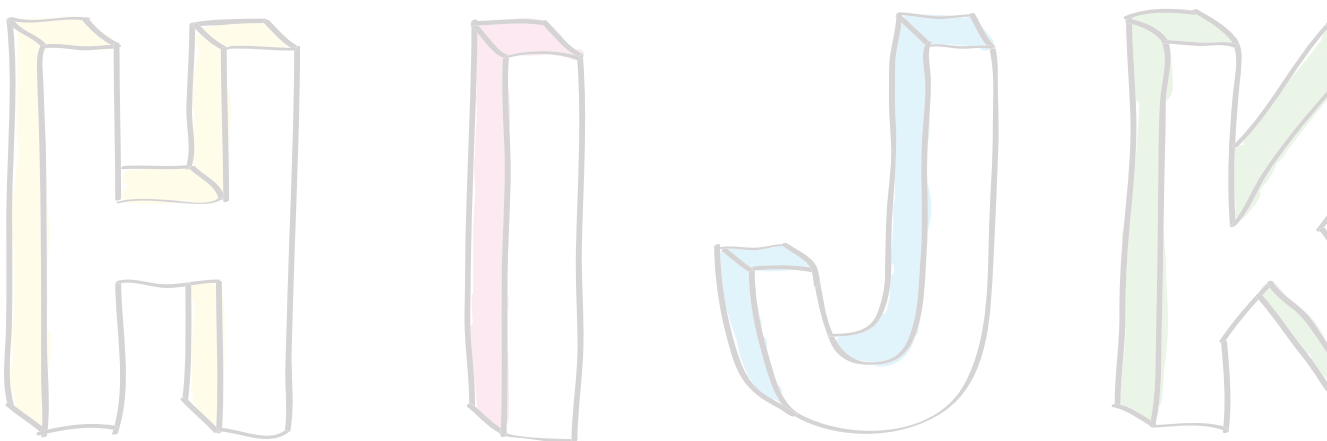
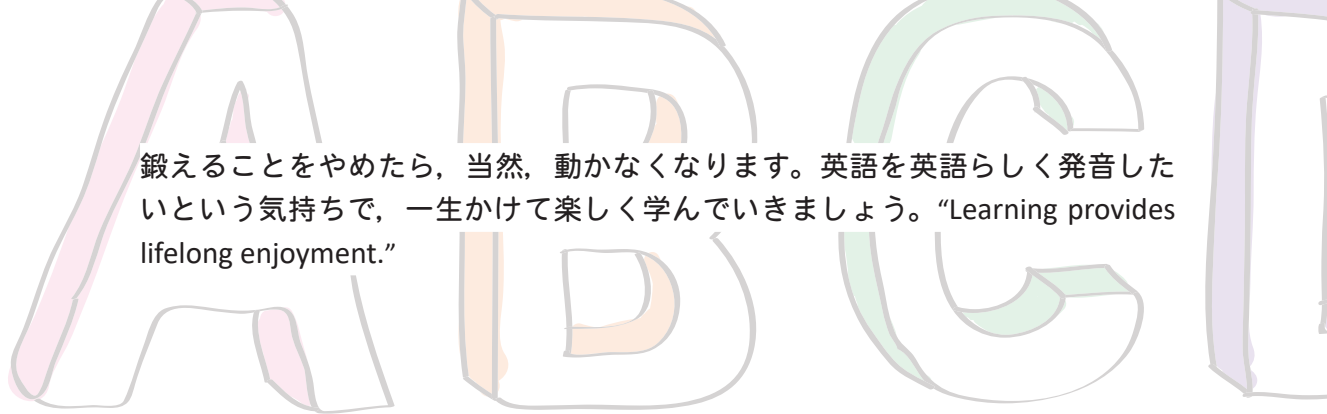
4. フォニックスだけでは足りません

すでに英語を聞いてわかり話すことができる英語圏の児童が、英語の「音」と「文字」のルールを学習することによって、自分で読み書きできるようになるための学習法としてフォニックスは用いられています。日本人の児童が、英語の音を知らずにフォニックスのルールだけを覚えることは辛い学習法になってしまいます。日本語と英語の音は大きく異なるため、英語の音を聞くことはとても重要です。しかも、英語はつづりがとても不規則な言語の1つですから、フォニックスのルールですべての英語が読めるわけではありません。フォニックスで読める英単語は全体の70%程度です。フォニックスのルールを学習しながら、同時に英語の音声をたくさん聞きましょう。

英語を習得する一番の方法は、英語にたくさん触れることです。この本には、「英語で話そう」（家庭編、授業編、日常会話編）、「英語で歌おう」（英語の歌10曲）も入っています。楽しいと感じるものには、だれでも自然と多く触れます。英語の発音は楽しい、英語の発音とつづりの関係は面白いなど、英語が興味深いものになると嬉しいです。

英語学習は何歳からでもできます。“Never too late.” 英語の発音は筋肉のようなものです。鍛えたら発音できるようになり、聞き取れるようにもなります。

鍛えることをやめたら、当然、動かなくなります。英語を英語らしく発音したいという気持ちで、一生かけて楽しく学んでいきましょう。“Learning provides lifelong enjoyment.”



目次

第1部 「音声学」って何だろう？

はじめに

第1章 英語の子音

- | | |
|---|----|
| 1. pig の p の発音は？ [p], [b] | 16 |
| 2. milk の m の発音は？ [m] | 17 |
| 3. fish の f の発音は？ [f], [v] | 18 |
| 4. three の th の発音は？ [θ], [ð] | 20 |
| 5. tree の t の発音は？ [t], [d], [s], [z], [n], [ts], [dz] | 21 |
| 6. lemon の l の発音は？ [l] | 24 |
| 7. red の r の発音は？ [r] | 24 |
| 8. she の sh の発音は？ [ʃ], [ʒ], [tʃ], [dʒ] | 26 |
| 9. key の k の発音は？ [k], [g], [ŋ] | 28 |
| 10. hit の h の発音は？ [h] | 30 |
| ミニマルペアの聞きとりと発音にチャレンジ | 32 |

第2章 英語の母音

- | | |
|---------------------------------------|----|
| 1. 日本語の「ア」に似て聞こえる音 [æ], [a], [ʌ], [ə] | 34 |
| 2. 日本語の「イ」に似て聞こえる音 [i:], [ɪ] | 36 |
| 3. 日本語の「ウ」に似て聞こえる音 [u:], [ʊ] | 37 |
| 4. 日本語の「エ」に似て聞こえる音 [e], [ɛ] | 38 |
| 5. 日本語の「オ」に似て聞こえる音 [o], [ɔ:] | 39 |
| 6. 半母音 日本語の「ヤ行」と「ワ行」の音 [j], [w] | 40 |
| 7. 二重母音 [eɪ], [aɪ], [ɔɪ], [aʊ], [oʊ] | 41 |

第3章 英語らしさ—音素よりも大きな単位のお話—

- | | |
|-----------------------------------|----|
| 1. 音節の成り立ちとアクセント | 44 |
| 2. 音のつながり | 47 |
| 3. 文アクセントとリズム | 49 |
| 早口言葉 (tongue twister) にチャレンジ | 51 |
| 4. イントネーション Excuse me には意味が3種類ある？ | 52 |

第2部 フォニックスを学ぼう

- | | |
|---------------------------------|----|
| 1. 子音のフォニックス① (1文字1音) | 56 |
| 2. 母音のフォニックス① (短母音) | 58 |
| 3. 子音のフォニックス② (2文字1音) | 60 |
| 4. 音と文字の足し算 | 61 |
| 5. アルファベットの名前読み | 62 |
| 6. マジック e (魔法の e) | 64 |
| 7. 母音のフォニックス② (長母音) | 65 |
| 8. 母音のフォニックス③ (二重母音) | 66 |
| 9. r のついた母音の発音と間違いやすいつづり | 67 |
| 10. 子音連続: 日本語の母音「あいうえお」を入れないように | 68 |
| 11. フォニックスルールで読めない単語 | 70 |
| 12. 英文を読んでみよう | 71 |
| 13. 英語で話そう | 74 |
| 14. 英語で歌おう | 83 |

付録

- ① アルファベット台紙, 26文字カード, 2文字カードの使い方
 - ② 英語の音になれる音あそび
 - ③ 発音記号を覚えよう
 - ④ 英単語の音を数えよう
- フォニックスのまとめ

【本書の使い方】

第1部で、英語の音声について、音声学に基づいた、英語らしい発音の仕方(理論)を学習します。英語を発音する時の、口や舌の形、息の使い方を覚え、CDの音声に合わせて、英語の発音を繰り返し練習します。第2部で、フォニックス(英語の音と文字の関係)を学習します。第1部の英語の発音の仕方を読み返しなが、音と文字を結び付ける方法を学びます。英単語の読み、英語の歌や会話も練習します(実践)。本書は、アメリカ英語の発音を扱います。英語母語話者(アメリカ英語話者)の発音が収録されています。

第1部

「音声学」って何だろう？



はじめに

音声学は、名前のとおり、音声の特徴を理解することを目指す学問分野です。ここでいう「音声の特徴」とは具体的に何のことでしょうか？例えば「顔の特徴」というとき、それは、鼻、目、口などの形や肌色、全体的な印象（老若や性格）のことをいいます。では「音声の特徴」という場合に何に注目すればよいのかを、はじめに考えていきましょう。日本語と英語とを比べながら、いくつかの重要な特徴について紹介していきます。


① 息の量：英語は日本語より息を多く出します

何か音を出すには、肺からの空気の流れ（息）が必要です。このときの**息の量**が、日本語・英語の音声的特徴の重要な違いの1つなのです。例えば、日本語の「ペン」の「ペ」よりも英語の pen の p の音の方が息を強く出して発音されます。このように日本語よりも多くの息を使う発音が英語にはたくさんあります。ただし、同じ p の音でも cup の p は、「プ」と聞こえないぐらいに口から息を出さない方が英語らしく聞こえるので、単語の最初（pen）と単語の最後（cup）で息の使い方を変えなければならない場合もあります。

② 喉の震え：有声音と無声音

喉に手を当てて「静かに」というときの shhhhh（シー）を発声してみましょう。このとき、喉は震えていませんね。今度は先の shhhhh を濁らせて zhhhhh（ジィ）と発声してみましょう。喉が振動しているのが感じられるかと思います。このように、音声には、喉（正確には喉の中の「声帯」という器官）が震える音と震えない音があるということを覚えておきましょう。喉が震える音を「**有声音**」、喉が震えない音を「**無声音**」とよびます。以下に、有声音と無声音のペアの例を挙げておきます。

図1 有声音と無声音のペアの例

有声音	発音の口の形は同じ	無声音
dip の [d]		tip の [t]
zip の [z]		sip の [s]
gate の [g]		Kate の [k]

もしかしたらこの例を見て「**ゝ**」（濁点）のつかない音（清音）（ティップ、スィップ、ケイト）が無声音で、「**ゞ**」のつく音（濁音）（ディップ、ズィップ、ゲイト）が有声音だと思ったかもしれませんが。しかし、例えば mini 「ミニ」のように m や n の音は、濁点がつきませんが「有声音」です。無声・有聲の区別はあくまで「喉の震えがあるかないか」に基づく区別なので、日本語の清・濁の区別とは別物だと思ってください。

【まとめ】 有声音：喉のあたり（声帯）が震える音

無声音：喉のあたり（声帯）が震えない音

③ 口の使い方：母音と子音

3つ目の特徴は、**口をどのように使って発音するのか**についてです。口を広げたり狭めたり、舌を歯に当てたり口内の奥に引っ込めたり、口の使い方によっていろいろな音が出ますよね。ここでは、母音の場合と子音の場合とに分けて、どういった口の使い方が重要なのかを説明していきます。

母音

母音は、息が唇や歯などの音声器官によって大きな抵抗を受けずに出される音です。日本語でいう「アイウエオ」のことですね。母音には有声音しかありません。まず、口をほとんど閉じた状態で母音を発音してみてください。そうすると出てくる音は、「イ」か「ウ」のどちらかだけです。そこから口を次第に開いていくと、やっと「エ」、「オ」、「ア」の母音が出ます。ここから、母音の作り方には「**口の開き具合**」が関係しているということがわかります。

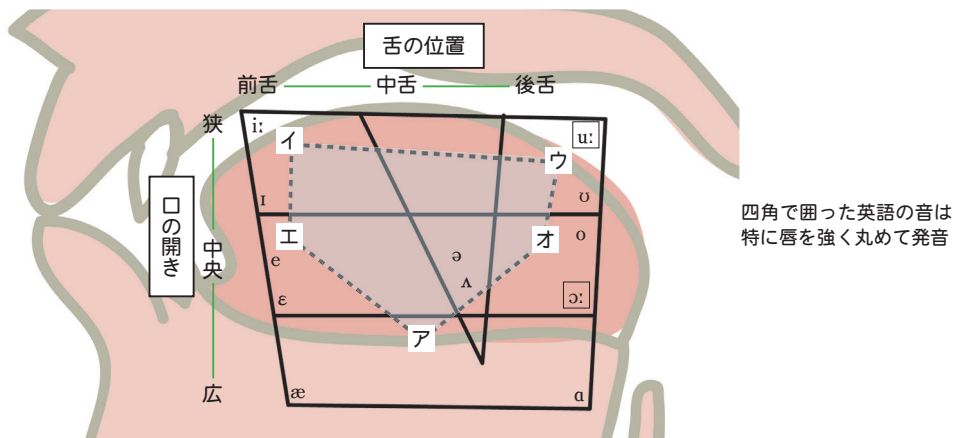
では、口をほとんど閉じた状態のときの「イ」と「ウ」の違いは何でしょうか？「**舌の位置**」が違いますね。「イ」のときは口の前の方まで舌が伸びていますが、「ウ」のときは口の奥の方に舌が引っ込んでいるのがわかるかと思います。

最後に、日本語の「ウ」と英語の「ウ」（発音記号では [u:]、[ʊ] と表します）を比べてみましょう。両者は「**口の開き具合**」と「**舌の位置**」が微妙に違うのですが、そこはあまり気にしなくていいです。両者の違いで重要なのは「**唇の丸め具合**」です。日本語の「ウ」を発音するときは唇を丸めないのですが、英語の「ウ」（特に [u:]）を発音するときは唇を丸めてください。

以上のように、母音は「**口の開き具合**」、「**舌の位置**」、「**唇の丸め具合**」を調節して作られます。調節の違いが言語ごとにあるから、日本語の「ア」に近い音が英語には4つもある（cat [æ], cup [ʌ], hot [ɑ], about [ə]）ということが起こるのです。

以下の図2に、「**口の開き具合**」、「**舌の位置**」、「**唇の丸め具合**」をもとにして英語と日本語の母音を並べた図を挙げておきます。この図から読み取ってほしいのは、「日本語よりも英語の方が口を動かす範囲が大きい」ということです。このことは、図2の5つの日本語の母音を結んだ線の範囲が明らかに小さいことから読み取れます。日本語の母音の中で口を一番広く開く「ア」でも、英語の「ア」である [æ]、[ɑ] に比べて狭いですね。

図2 英語・日本語の母音



子音

子音というのは、息が唇や歯などの音声器官によって大きな抵抗を受ける音です。子音には有声音と無声音があります。日本語でいう「アイウエオ」以外の音だと思ってもらってかまいません。子音には pen の p などのように日英語に共通するものも多くありますが、[l] や [r] のように英語にしかない子音もありますね。子音を正しく発音するために知っておくべきことは、その子音の「発音位置」と「発音方法」です。

「**発音位置**」というのは、唇、歯、**歯茎**、**硬口蓋**（口内天井の硬い部分）、**軟口蓋**（やわらかい部分）といった音声器官（図3）のどこを使って発音するのかに関する情報です。例えば tip の t と sip の s はどちらも上歯（裏側）の**歯茎**部分と舌先とを使って発音するので、発音位置はどちらも同じ「**歯茎**」です。そうするとこの2つの違いは「**発音方法**」ということになります。

「**発音方法**」というのは、息がどのように排出されるかに関する情報です。溜めた息が勢いよく排出される「**破裂**」や、ガスが漏れているような音の出る「**摩擦**」などがあります。先の tip の t の発音方法は「**破裂**」で、sip の s の発音方法は「**摩擦**」です。

このように、発音位置と発音方法とによって英語子音を分類していくと、右ページ図4のようになります（図内の発音記号についてはすぐ後で触れます）。

図3 音声器官の名称

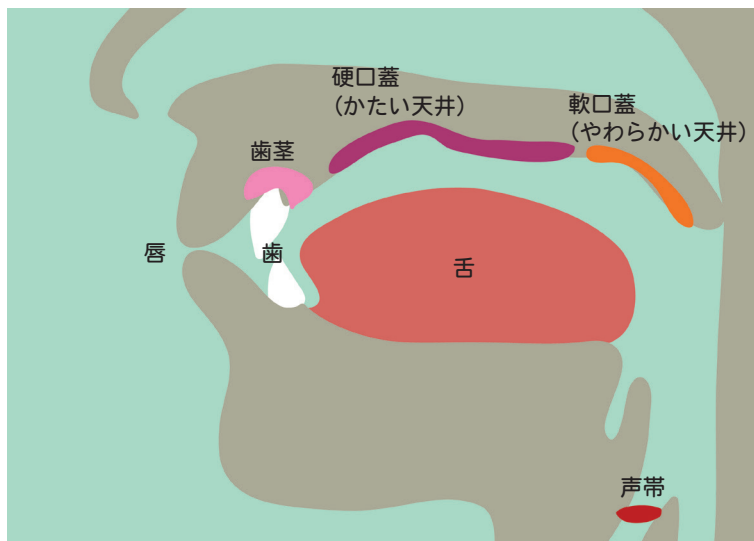
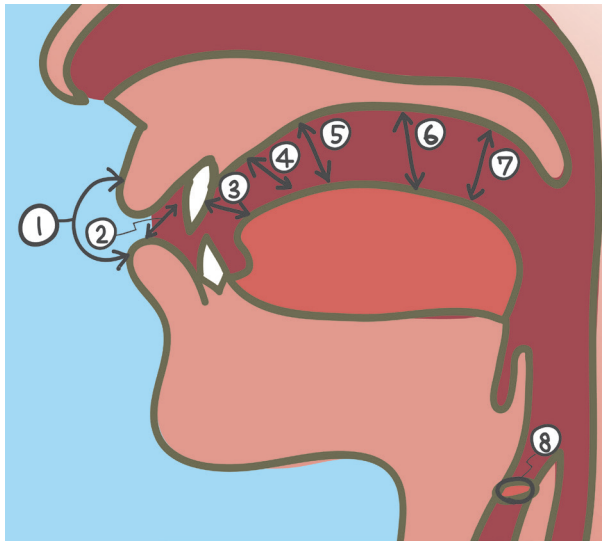


図 4 英語の子音



発音位置	両唇音 ①	唇歯音 ②	歯間音 ③	歯茎音 ④	歯茎 硬口蓋音 ⑤	硬口蓋音 ⑥	軟口蓋音 ⑦	声門音 ⑧
発音方法								
破裂音	p b			t d			k g	
摩擦音		f v	θ ð	s z	ʃ ʒ			h
破擦音				ts dz	tʃ dʒ			
鼻音	m			n			ŋ	
側面音				l				
そり舌音				r				
半母音	w					j		

(欄内の左側が無声音，右側が有声音)

以上で、1つ1つの音を正確に出すために押さえておくべき音声的特徴としてどのようなものがあるのかを一通り見ました。息の強弱、有声・無声、口の使い方（口の開き具合、舌や唇の使い方など）というさまざまな調節を経て1つの音が正確に出ることがわかりました。個々の音の具体的な特徴については、まず子音の解説からはじめ（第1章）、母音の解説へと移ります（第2章）。

単語を作る素になる音：音素

ここで本章に入る前にもう1つ、「音素」という音声学にとって重要な概念を紹介しておきます。子音・母音は音声的に最も小さな単位で、あわせて「音素」とよばれます。「音素」とは、例えば [k] + [æ] + [t] で cat という単語ができる1つ1つの音 [k], [æ], [t] を指します。つまり「音素」という名前は「単語を作る素になる音」という性質に由来します。単語の正確な発音には、単語を作る音素を正確に発音できるようにならなければなりません。第1章・第2章を通して各音素の特徴を学んで、英語らしい発音を身につけましょう。

ちなみに、図2、4の発音記号は「国際音声記号」(International Phonetic Alphabet) を用いています。国際音声記号は、普通は略して「IPA」とよびます。IPAは音の特徴を表すための全言語共通の記号です。英語であれ日本語であれ、または未知の言語の単語であっても、IPAで発音が表記されていれば、その語の正確な発音がわかるようになっています。英語には日本語にない音がたくさんあるため、カタカナですべての英語の発音を表記することには無理があります。本書では正確な発音を身につけてもらうためにIPAを積極的に用いるので、少しずつ覚えていってください。学習者向けの辞書にもIPA表記が載っていることが多いので、独力で正確な発音を知るためにはIPAを覚えておくことが有用です。

音素よりも大きな単位

音素よりも大きな単位に関する「音声の特徴」については、第3章で詳しく扱いますが、ここで簡単に確認しておきましょう。まず、個々の音素をつなげていくと単語ができ、単語には「音節」という単位があります。例えば、pencil という単語は、[pen], [səl] の2音節から成っています。この音節の成り立ちが日本語と英語とでは大きく違いますし、また、音節に置く「アクセント」についても日本語が「高低アクセント」の言語、英語は「強弱アクセント」の言語というように対照的です。

さらに、単語と単語とをつなげていくと、その音と音とがつながることがあります。これを「**リンキング**」とよびます。例えば、3語 Not at all. は、[natətɔ:l] (ナトル) のように音同士がつながり、なめらかに発音されるのが普通です。どんどん単語をつなげていくと、文ができます。例えば I will buy a red pencil. という文ができたとしみましょう。この文の単語の I も will も buy も a も red も pencil もすべて同じ発音の強さで読むわけにはいきません。文には、弱く発音すべき単語と強く発音すべき単語があるのです（**文アクセント**）。

最後に、文には「**イントネーション**」がつかます。日本語の「そうなんですか」の意味がイントネーションの違いによって〈確認〉になったり〈疑い〉になったり〈納得〉になったり〈驚き〉になったりすると同様に、英語の場合もイントネーションの違いが意味の違いに大きく関わります。

では、第1章で実際に発音の練習をしてみましょう。

第1章

英語の子音

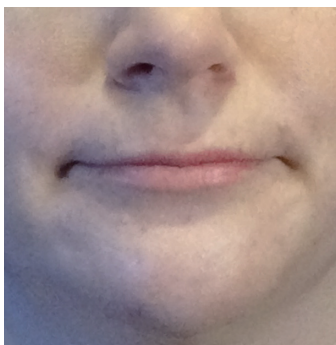
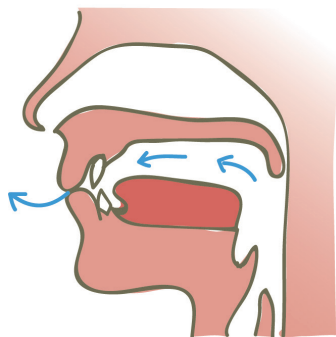


英語の子音は、①音を作る場所（発音位置）、②音を作る方法（発音方法）、③喉のあたりが震える（有声音）または喉のあたりが震えない（無声音）か、によって音が決まります。①②③を学びながら英語の子音を発音しましょう。

1. pig の p の発音は？ ～ [p], [b] ～

発音の仕方

[p] の発音は、上唇と下唇をしっかりと閉じて出す音で、勢いよく発音する音です。[b] の発音も同じです。ただし、[p] は喉のあたりが震えませんが、[b] は喉のあたりが震えます。[p] と [b] は口先だけで発音するのではなく（息が弱くなりすぎます）、息をしっかりと出しましょう。それでは、下記の断面図を見て確認しましょう。



- 【まとめ】 ① 両唇音（上唇と下唇をしっかりと閉じて出す音）
② 破裂音（勢いよく発音する音）
③ [p]…無声音（喉のあたりが震えない音） [b]…有声音（喉のあたりが震える音）



words : [p], [b] を含む英単語

1. [p] **pig, pencil, apple, happy, top, hop**
2. [b] **book, bell, aboard, table, job, grab**

発音方法：ティッシュ（紙）を使った練習方法

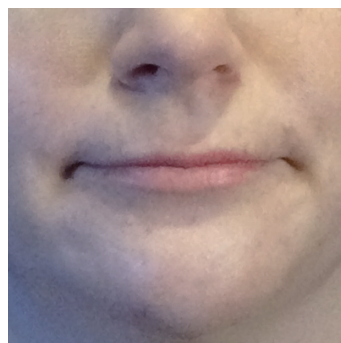
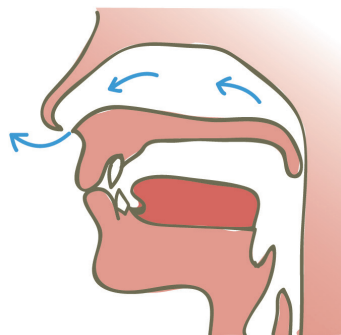


ティッシュや紙を口の前に持ってきて、[p] や [b] を発音してみましょう。勢いよく、ティッシュや紙が揺れれば英語の音らしくなります！

2. milk の m の発音は？ ～ [m] ～

発音の仕方

[m] の発音は、上唇と下唇をしっかり閉じて出す音で、鼻から息を出す音です。[m] は喉のあたりが震えます。唇は閉じて、ハミングをするように「ンー」と発音しましょう。



- 【まとめ】 ① 両唇音（上唇と下唇をしっかり閉じて出す音）
② 鼻音（鼻から息を出す音）
③ 有声音（喉のあたりが震える音）



words : [m] を含む英単語

3. [m] **mop, mouse, summer, umbrella, room, mom**

発音のポイント

[p], [b], [m] はそれぞれ、日本語のパ行（パ pa ピ pi プ pu ペ pe ポ po）、バ行（バ ba ビ bi ブ bu ベ be ボ bo）、マ行（マ ma ミ mi ム mu メ me モ mo）の音としてありますので、[p], [b], [m] の口の形を作ることは日本人にとって簡単です。しかし、発音するときの息の出し方は、英語と日本語で異なるので注意する必要があります。

英語の場合は、pen のように単語の最初の音が [p] のときは息を強く出します。日本語の場合は単語の最初であっても英語のような強い音にはなりません。そのため、単語の最初の [p] は日本語のパ行よりも強く息を出して発音するように心がけましょう。

反対に、cup のように単語の最後の [p] の発音は、日本語のように音を出さないようにしましょう。日本語で「カップ」と言うと最後の [p] の音が出すぎてしまいます。